



第3話 風斗碧
第3回全日本選手権編



はい

おみやげ
貰って
帰るよ



ママ!
風呂敷を
くれ



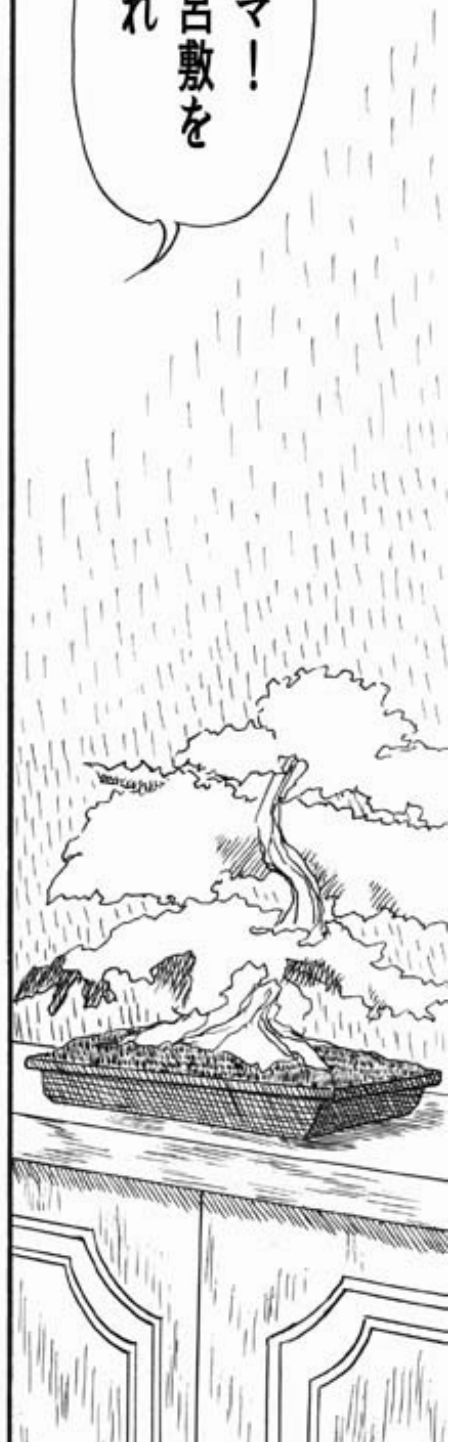
ええ
ええ

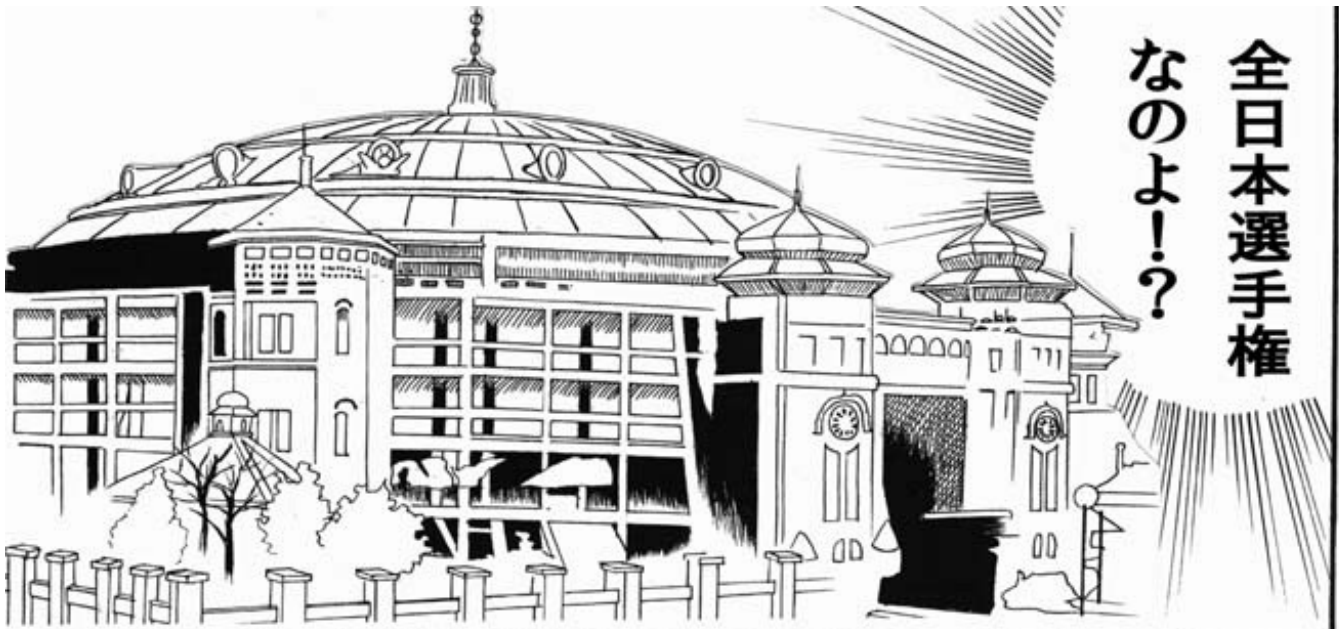
行って
きます



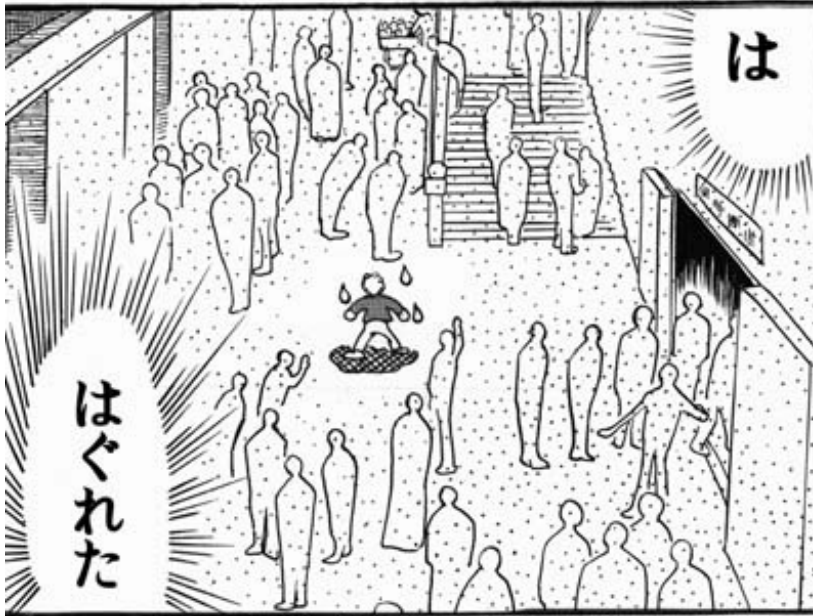
ぽぽ
いってらっしゃい
あとでねー

おみやげ
って
今日は





全日本選手権
なのよ!?



はぐれた



かや

かや

かや

かや

かや



圭江ちゃん
藤吉先...



丹田に力
をこめて



なつ
泣かないぞ
もう5年生
なんだから

えつとそう
まずは丹田だ







うちの先生は
細っこい身体で
軽やかな足取りの
剣道をするだろう？

森島先生は
重低音で変わり身の
早い剣道だって
言われてるのさ

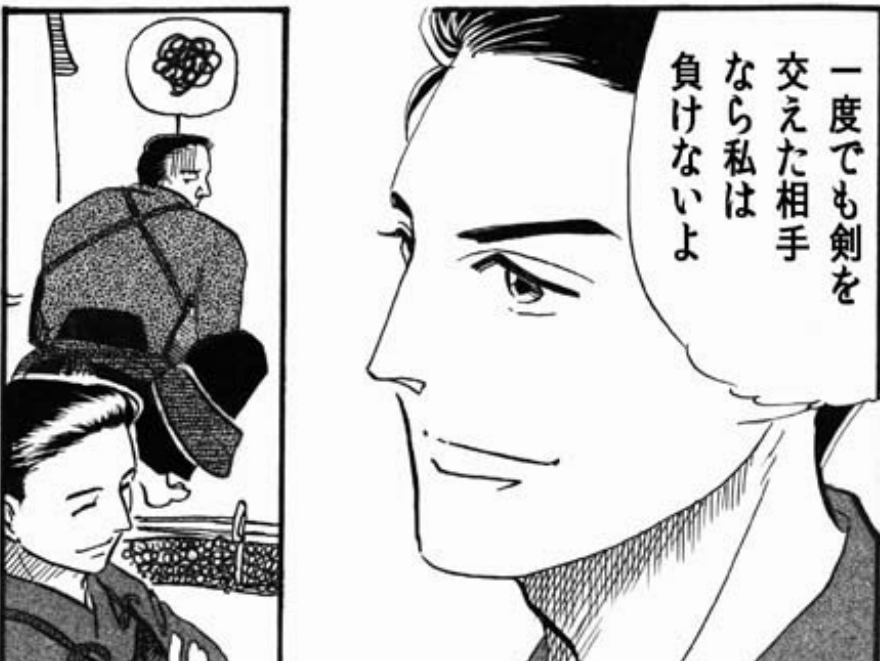


・なぜ
君は緊張
しないんだ

だって大概みんな
稽古したこと
ある奴らばかり
じゃないか



森島？
どうした
緊張してるのか



一度でも剣を
交えた相手
なら私は
負けないよ



忠太郎先生が
言っていた
じゃないか

「試合も稽古も
全く同じ気持ちで
向き合いなさい」

※ 小川忠太郎

何だか・君と
話をしていると
緊張するのが
アホらしくなる

全日本選手権
なんだぜ？

まあまあ
気を楽に

ポン

・・・君
ホントに
初出場か？

さあ
行くぞ

カッ

カッ

カッ

え？え？
なに
どうして





※巻末解説参照





そうだ
剣道始めた
から分かる

相手が怖いと
どうしても
頭が下がる
(面打たれるの
が怖いから)



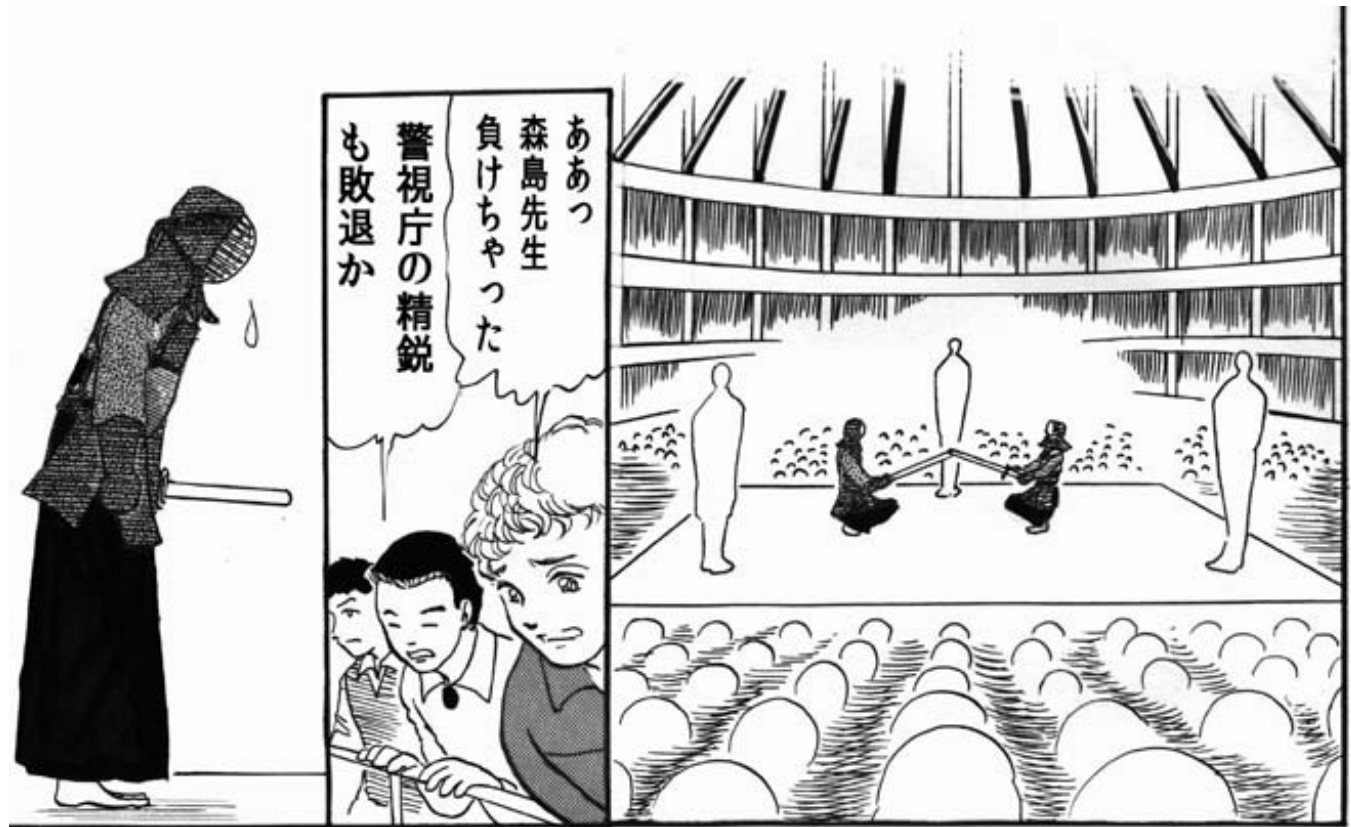
でも太郎先生は
水の上を歩くみたい
に動くんだ

なんて
綺麗な

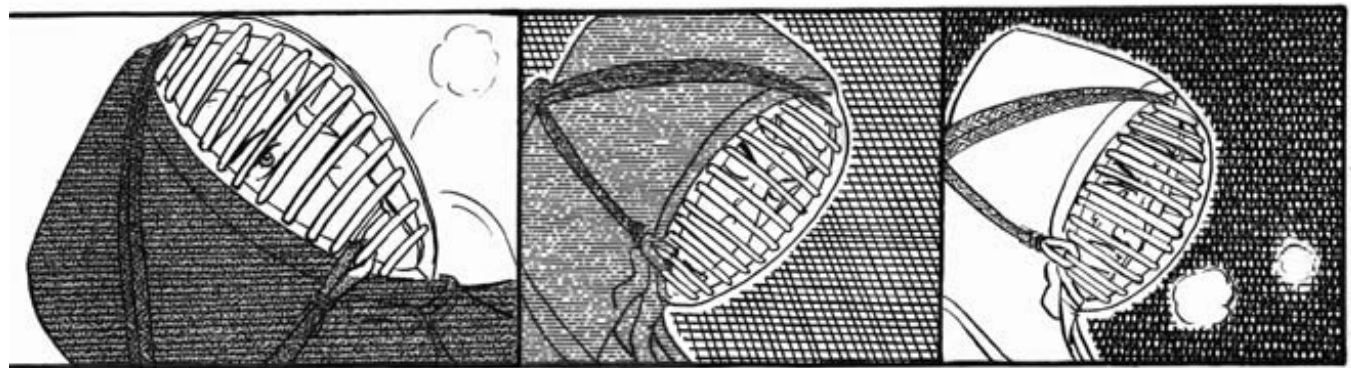


勝負あり





ああつ
森島先生
負けちゃった
警視庁の精鋭
も敗退か



次は俺の
番だ



有難う

見てたよ

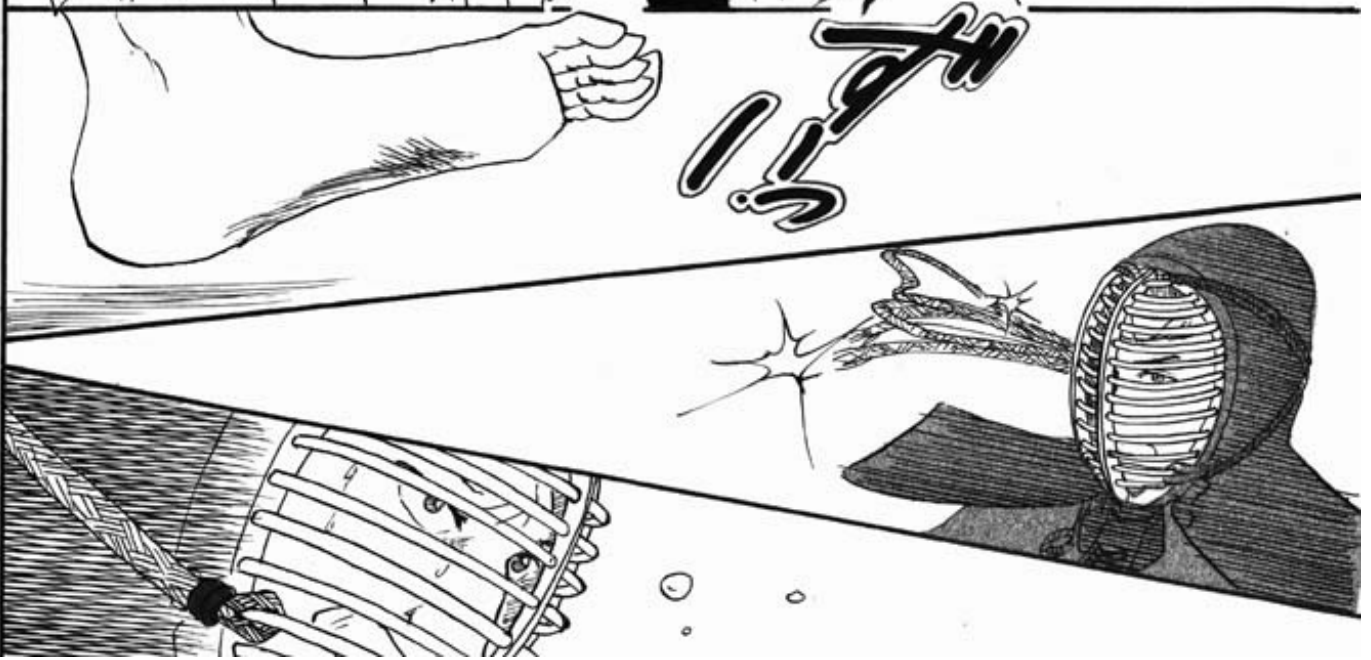


準々決勝

赤・中村選手（神奈川県）
白・緒方選手（熊本）



始め



勝負





私の飛び込みに
耐えられる
かな

あの面

また!

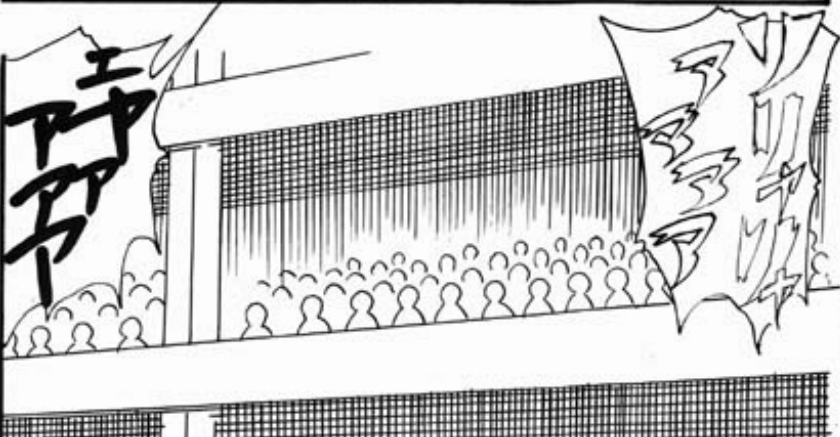
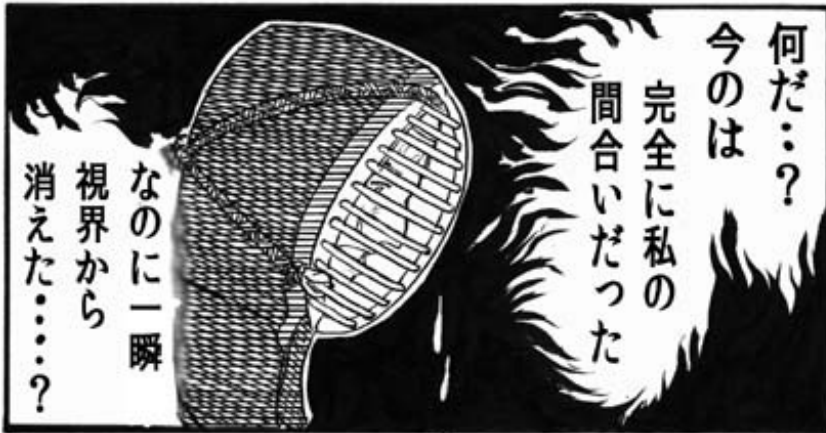


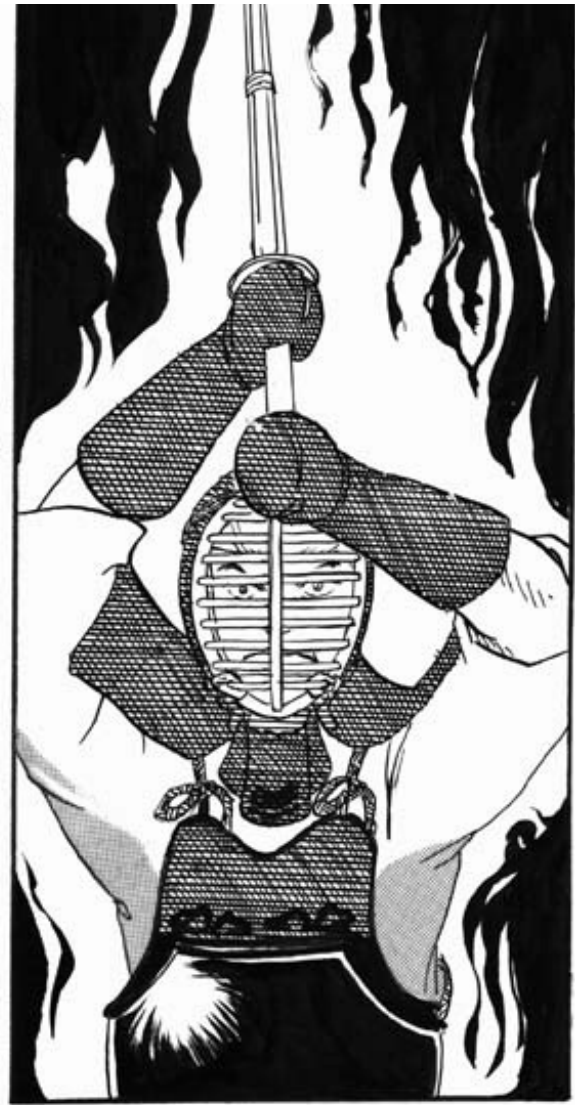
流石やねえ
全く動揺が
見えんばい
ぼってん
その細か身体で





と
見せかけて
小手!









面あり



なんとう

ミロ

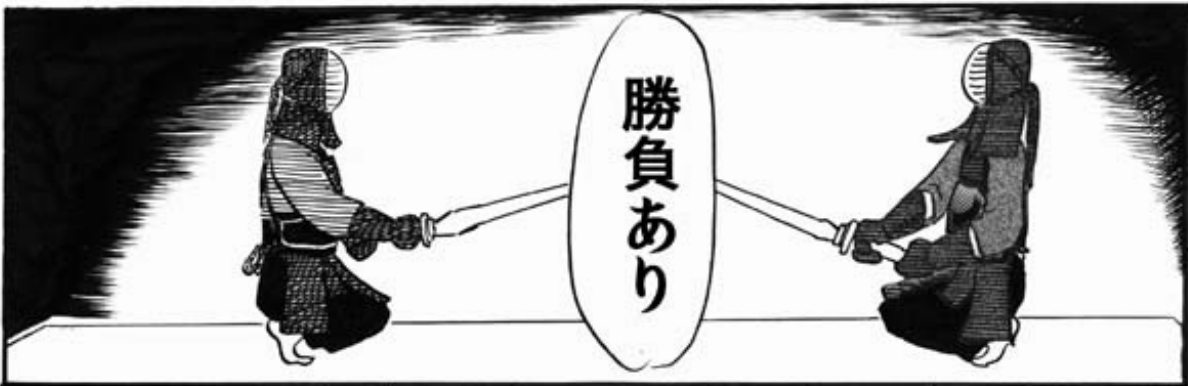


なんとう
継ぎ足の
巧さよ

天才だ

あと
2つ





『月のよりほ』関連用語解説



○中村太郎 当時33歳(教士6段)

昭和28年より神奈川県警に勤務、神奈川県代表として出場
9月に関東管区警察剣道大会個人優勝、10月、全国警察剣道
大会個人戦優勝、11月、全日本剣道選手権優勝。年間3大タ
イトルを征した。



○森島健男 当時33歳

中村太郎とは国士館専門学校、18の頃から旧知の仲。全日本
選手権大会第1回から5回までの連続出場を果たす。昭和23年
警視庁に入庁、のち警視庁剣道師範、同剣道首席師範。昭和
54年警視庁技官、警察大学校教授。退職後、警視庁剣道名誉
師範。範士授受。9段を返上



○中村藤吉 当時67歳

大義塾道場塾長。中村太郎の父。韓国、北米など海外での剣
道普及と子供の生涯教育に努めた。中野宗佑と同郷で津田
一伝流では2年後輩に当たる。



○斎村五郎 当時68歳

国士館時代に、中村太郎・森島建男を教える。剣道の最高位、
範士十段。「昭和の剣聖」といわれる。



○中野宗佑 当時69歳

福岡県出身。中村藤吉の2年先輩。「足の宗佑」「稽古の虫」と
呼ばれた剣道家だった。剣道の最高位、範士十段の一人。



○小川忠太郎 当時54歳

埼玉県出身。国士館時代に、斎村の下で中村太郎・森島建男ら
を教える。剣道の理想「剣禅一致」の体現者として知られる。
警視庁名誉師範。剣道理念委員。



○榊原正 当時33歳

全日本選手権大会第1回優勝。錬士 愛知県代表
名古屋矯正管区法務教官出身。



○今西雄一郎 当時32歳

全日本選手権大会第2回優勝。錬士 福岡県代表
(株)西日本鉄道職員。



○緒方選手

教士 熊本県代表。(後の緒方敬義範士か?) 遠間からの飛び込み技が得意で優勝候補の一人と目されていた。

○蔵前国技館(国際スタジアム・大鉄傘)



明治42年開館～大正9年再建～昭和12年再々建～
昭和57年取り壊し。東京駅を建てた辰野金吾の設計。
戦後は「国際スタジアム」とも呼ばれ、初期の全日本選手権はここで行われている。元々相撲場の為、土俵の上に台を組んで試合場を作っていた。

『月のような』第4回へ続く

月のような・3

<http://p.booklog.jp/book/50579>

著者：風斗 碧

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/midorikazato/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/50579>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/50579>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.